



都通りの一角、歴史的建造物（酒醸造店「旧丸ヨ白方」支店）を活用して店舗を構える「December3」は、エスニック雑貨や衣料、主にインドやアフリカ、タイなどで買い付けた民芸品などを販売しています。

鈴木社長は小樽出身で、結婚後二年ほど本州に生活拠点を構えますが、その後生まれ育った小樽へ戻り、昭和53年に開業しました。

小樽本店の他、札幌にも店を構えており、オフィシャルブログでは随時コーディネートや商品を紹介しています。

● 歴史的建造物として

旧丸ヨ白方支店が使用していた建物はタイル張りの洋風な外観で、石造りの特徴的な内装や装飾と異国情緒溢れる商品は異邦の地を訪れたような雰囲気を感じるお店です。

現店舗に移転したのは平成17年12月3日で、移転当時まで歴史的建造物に指定されておらず、鈴木社長が小樽市指定歴史的建造物の登録を申請、平成26年に登録され、小樽の歴史的な街並みの保存にも貢献しています。

店舗一階には個性豊かな商品が並

び、二階はギャラリースペース、三階にはアフリカで買い付けたお面や琥珀などの民芸品、ヤシの繊維を使って織った帽子や敷物などが並んでいます。



● 異国の風が流れた大阪万博

開業のきっかけのひとつとなったのは、1970年に開催された大阪万博でした。世界中から集まった聞き馴染みのない国や民族の存在に大きく心を揺さ振られました。生活様式や価値観は自身が感じていたものと全く異なり、中でもその土地柄が色濃く表現された民芸品に強く惹かれたといいます。

当時の日本は海外から商品を直接輸入することが容易ではなかったため、異国のものというだけで非常に珍しく、海外は遠く離れた存在でした。

● お店を支えるお客さま

これまでお店を支えていただいたのは、幾度となく足を運んでくれる常連のお客さまでした。従業員の佐々木さんは、お客さまとの何気ない会話や来店時の服装で好みを感じ取り、以前に購入していただいた商品を思い出し、コーディネートを提案、商品選びをお手伝いします。心地良い空間でお買い物を楽しんでいただけるよう全スタッフが心掛けています。

こうしたお客さまとの関係を長年育んできた結果、お店は40年続けられています。「お客様との繋がりは時代の変化と共に難しくなったと同時に、都通り商店街を通る客層も随分と変わった」と鈴木社長は感じています。それでも足を運び続けてくださるお客様を大切にしていきたいと話してくれました。

● 「これからの夢

「商品の仕入れは8年前から息子でマネージャーの謙吾と一緒にしています。私は二階のギャラリースペースを、もっと幅広く活用してもらえようしていきたい。また、コレクションとその土地の暮らしを合わせて紹介していきたい。ハンドクラフトはそれぞれに物語があり、これまで世界各地で魅せられた感動を、多くの人と共有できるようにしていきたい」そう話してくださいました。

民族を超えたものを感じたといいます。思考も文化も異なる地で作られた雑貨やハンドクラフトを、お客さま自身の感性で選んでいただきたいと思っています。



家畜の首に下げるお守り

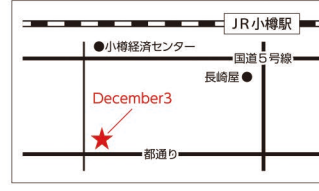


左 鈴木社長
右 模様が特徴的なラグマット



● **あなたは何を発見しますか**

鈴木社長がこれまで多くの海外を訪れるなかで最も惹かれたのは、民芸品（ハンドクラフト）だと言います。決して華美な装飾を施されたものではなく、生活の中で使い古された日用品で、例えば、家畜農家で使われていた家畜の首から下げる木彫りのお守りなどは「用具」としての機能的な役割を持たずとも、スピリチュアル的なものとして、生活用具と同様、先祖代々大切に所有され時を経てきました。人間の営みの中で生まれたものには作った人や所有していた人の魂が宿っており、そこに



小樽市稲穂2丁目14-1
電話 22-9973
営業時間 10:00~18:00
定休日なし(年末年始)